

1 徳島戦災死没者追悼式



※写真提供 徳島市

開催概要 (平成24年度)

歳事名：徳島戦災死没者追悼式  
 会場：とくぎんトモニプラザ (徳島県青少年センター)  
 (JR徳島駅より 徒歩10分)  
 日時：平成24年7月4日(水) ※例年7月4日開催  
 参列者数：80人  
 連絡先：徳島戦災遺族会事務局 (徳島市保健福祉部保健福祉政策課内) 088-621-5562

式次第 (平成24年度)

1. 開 会
2. 黙 祷
3. 式 辞：徳島戦災遺族会会長 片山光男
4. 追 憶 の 辞：徳島県知事、徳島県議会議長、徳島市長、徳島市議会議長
5. 追 悼 電 報
6. 献 花
7. 閉 会

式 辞 (平成24年度)

本日、ここに平成二十四年度徳島戦災死没者追悼式を挙行するにあたり、遺族会を代表し謹んで追悼の誠を申しあげます。

願いますれば、昭和二十年七月三日から四日にかけて、また、それに相前後した米空軍の爆撃を受けた徳島市民は、火災の中を家族と離ればなれとなり、必死になって肉親を求めつつ地獄の火中を逃げまどったのであります。

しかしながら、最愛の肉親とは二度と言葉をかわすことは出来なくなりました。

今、大戦の犠牲となられた諸霊の前にたち、在りし日の面影を忍びますとき、万感胸に迫るものがあります。

あの徳島大空襲から六十七年、私達は犠牲となられた諸霊の面影を胸に秘め、ひたすら徳島の発展を信じ、戦後のこんとんとした世相を力の限り生き抜いてまいりました。

幸い、私達遺族は一致団結し相互の融和を計り、現在ではそれぞれの分野で社会に貢献することが出来ておりますことは諸霊の尊い教訓と、御加護のたまものであります。

私達遺族は、諸霊のとしえに安からんことを祈るため、戦争の悲惨さを語り継ぎ、平和であることの尊さを強く訴えているところであります。

願わくば、私達のこの決意に対し、在天の光として御加護を賜りますようお願い申し上げるものであります。

終わりにになりましたが、本追悼式に格段の御援助をいただきました関係各位に対し、厚く御礼を申し上げますとともに、諸霊の御冥福をお祈りいたしまして式辞といたします。

平成二十四年七月四日

徳島戦災遺族会 会長 片山 光男

## 2 徳島戦災犠牲者慰霊塔



※写真提供 徳島市



### 基本情報

所 在：徳島中央公園内 東二の丸天守跡  
 住 所：徳島県徳島市徳島町城内1番外  
 (JR徳島駅 徒歩10分)  
 連絡先：徳島市 保健福祉政策課 088-621-5562 (直通)  
 建立者：遺族有志  
 建立年：昭和30年7月4日

### 碑 文

#### 【表】

徳島戦災 慰霊塔  
 犠 牲 者

#### 【裏】

昭和二十年太平洋戦争ノ終末ニ近  
 ツクヤ米國空軍大挙シテ日本全部  
 市ヲ爆撃ス徳島市亦コノ災ヲ免ル  
 能ハス同年七月四日未明一瞬ニシ  
 テ灰燼ニ帰ス市内ニ在ツテ命ヲ失  
 シモノ一千七百有餘市外縣外並ニ  
 外地ニ在リ前後シテソノ厄ニ遇フ  
 縣人亦二百五十餘慘禍ノ甚タシキ  
 言語ニ絶ス爾來十年猶ソノ靈ヲ弔  
 フコト至ツテ薄シ徳島戦災死没者  
 遺族会之ヲ遺憾トシ相議シテ戦禍  
 十周年ヲトシ慈ニ塔ヲ建テテ慰霊  
 /誠ヲ具顯ス  
 惟フニ死没ノ靈ソノ非命ヲ恨ムヤ  
 論ヲ俟タス然レトモ又己ヲ奉シテ  
 以テ戦争根絶ヲ願フノ念切ナルモ  
 ノアルヘシ  
 冀クハ遺族会ノ衷情之ニ感應シテ  
 ソノ靈ヲ慰メ以テ吾界永遠ノ平和  
 確立ニ資センコトヲ

昭和三十年七月四日  
 岡本優撰併書

3 平和之碑



基本情報

所 在： 那賀川町中島 那賀川鉄橋手前(阿波中島駅側)  
 住 所： 徳島県阿南市那賀川町中島  
 (JR阿波中島駅 徒歩10分)  
 連絡先： 個人であり記載せず  
 建立者： 那賀郡那賀川町婦人会  
 建立年： 平成17年12月

碑 文

平和之碑

太平洋戦争末期、奪回された南の島々を拠点に本土への空襲が熾烈となり、都市という都市はB29の空襲で焼野原と化し、県都徳島市も一夜にして壊滅状態となる。田園の閑静なわが町にも惨禍の爪痕が刻まれた。

昭和二十年七月三十日午後四時頃、満員の乗客をのせた五輛編成の牟土岐行の列車が中島駅を発車、那賀川鉄橋にさしかかった時、突然甲高い爆音とともに艦載機グラマン二機が飛来、列車めがけて投爆と機銃掃射を浴びせた。

列車の天井も座席も吹き飛び車軸は大きく傾き鉄橋の上で立往生、その動かぬ標的に容赦なく機銃掃射をくり返す鉄橋の線路つたいに逃げまどう者、たまたず川にいくつもの悲鳴が落ちていく。車内は一面肉片が散乱し血の海と化する。三十余名が死亡二十余名の重軽傷者を出す。

直ちに警防団、婦人会、町内会の人々による必死の救援が始まり死者は横井製材の土場に安置、重傷者はトラックで共栄病院へ、軽症者は益崎医院へと迅速果敢に活動、その夜西光寺で営まれた仮通夜で冥福を祈る。

時は流れ三十三年後、法要が盛大に行われた参列者の体験見聞記の小冊子「憶、七月三十日」が作られた。平成十年県婦人会の戦争を語り継ぐ会で「那賀川鉄橋列車爆撃」と題して紙芝居を発表、以来毎年夏には小中学生や一般の方にも語り続けられている。

戦乱に明け暮れた日々を必死に生き抜いてきた女性故に真剣に平和を願うものである。

戦争の愚かさと残酷さ、悲惨さをくりかえさないよう平和の尊さ、命の大切さを次の世代に語り継ぐため戦後六十周年を記念し、石碑に刻みここに平和の碑を建立する。

平成十七年十二月吉日

事業概要

那賀川鉄橋列車爆撃 一九四五 七月三十日  
 死者三十余名 負傷者二十余名  
 三十三回忌法要 一九七八 七月三十日  
 小冊子「憶！七月三十日」中島老人会作  
 県戦争を語り継ぐ会 一九九八 那賀川町婦人会  
 紙芝居制作発表「那賀川鉄道列車爆撃」  
 石碑建立 二〇〇五 六十周年記念事業  
 那賀郡那賀川町婦人会